



## 2020 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第9戦・10戦

開催場所 鈴鹿サーキット（三重県）  
開催日 12月12日・13日  
参加台数 OKクラス 29台  
天候 土曜日 晴れ / 日曜日 晴れ  
路面状況 土曜日 ドライ / 日曜日 ドライ

### ～INTREPID JAPAN CORSE～

監督 : 佐藤獎二  
ドライバー : 佐藤凌音 / 大宮賢人  
メカニック : 伊藤進/橋本剛基/仁科真一  
エンジン担当 : K SPEED WIN  
アドバイザー : 井上寛之



## 2020 全日本カート選手権 第9&10戦（鈴鹿サーキット/南コース）

2020全日本カート選手権はついに最終戦。例年より2~3週間遅い最終戦とあって、万が一にも雪でレース開催が難しいリスクもあると承知していたが、蓋をあけると好天に恵まれ、前回のもてぎ大会よりも暖かく感じてしまうほど。しかしポイントは寒暖差で、各レースヒートが行われるコンディション、気温や路面温度にうまくアジャストできるかがカギになる。またここ鈴鹿サーキット南コースは過去にイントレピッドシャーシにワールドカップやアジアパシフィック選手権、全日本カート優勝など数々のビッグタイトルをもたらしたサーキット。大宮 賢人 選手



佐藤 凌音 選手

相性もよく昨年もルーキーであった佐藤凌音選手が開幕戦ながら予選トップを走っている。得意の鈴鹿で今シーズンの有終の美を飾りたいところだ。



## 【タイムトライアル】佐藤 A 組 2位(全体3位) / 大宮 B 組 3位(全体9位)



木曜日、金曜日と調子よく上位のタイムをマークしながら迎えた土曜日14時15分からタイムトライアルは開始。事前の組み分けで佐藤凌音はA組、大宮賢人はB組へと振り分けられている。先ずはA組がスタート。計測開始直後にヨコハマ勢が飛び出し、そこから1分後にBS勢の中では早めに佐藤凌音がコースイン。丁寧に熱入れを行いながら周回。いい熱入れが出来ているようで順調にタイムをあげ、また場所取りもよく5・6・7周目とそのタイミングで全てベストを更新。もう少しでチェックカーが振られポール獲得かと思われたが、チャンピオンの渡会選手が最終回でポールを獲得。佐藤はA組の2位につける。A組のタイ

ムトライアル終了から数分後、今度はB組のタイムトライアルがスタート。大宮も早めのコースイン。同じく熱入れをしながらタイムを上げていくが、練習走行中より若干動きが鈍く見える。大宮は6周目にベストを更新しB組の3位につけるが、動きとしては少し鈍く感じるのが気になる。タイムトライアルでは一斉に新品タイヤが投入されることから、路面が重たくなるB組よりA組の方がタイムが出る傾向にある。しかし、このタイムトライアルのポールはB組。が、しかし以降はA組の選手が並び、個人的な感想としては数度の気温変化や路面温度変化に凄まじく細かく対応する必要があり、ほんの少しのセットのずれが大宮選手のタイムトライアルの時のようなマシンの動きになるようを感じる。当然私達もスペシャルタイヤの特徴は理解しているつもりだが、日進月歩のタイヤは凄まじい性能の反面、非常にデリケートかもしれない。とにもかくにも佐藤全体3位、大宮はA組であれば…と少し悔しさにじむ全体9位であった。

## 【第9戦 予選】佐藤6位 / 大宮11位

土曜日の最後のスケジュールとなるOKクラス第9戦予選は15時45分にスタート。既に若干気温が落ち始めており、どのようなレースになるのか少し不安を覚えながら、レースはスタート。スタートは佐藤が少し出遅れ、3コーナー通過時には5位にポジションダウ。ストレートに帰ってくるときには4位に順位を回復するものの、スタート直後に前方で発生した混乱が少し後続にも影響し、大宮は順位を大きく落とす15位前後で1周目を終了。スタートでは出遅れた佐藤だが、スピードと切れがあり前方にどんどん迫る。1周に1台パスできるスピードで3周終了時には2位に。そして前方およそ5~6メートルには1位の選手が見える。佐藤はペースが良く2周で1位に追いつき3、4コーナーの間でパス。昨年の鈴鹿以来のトップに立った。ここからグングン引き離したいところであったが、スリップも効く高速サーキットの鈴鹿。そして2位にはチャンピオンの渡会選手とあってうまく逃げることは出来ない。2周後には再びパスされるが3位の佐々木選手まで連結でインをさされ、一気に3位後退。そこからはペースをなかなか上げれずにバトル負けが目立つ状態に。やはりタイヤマネジメントを含むスキルアップも必要だ。チームメイトの大宮は中々ペースが上がらない…。想像以上に気温による変化がピークで苦しんでいる。スタートでも順位を落としてしまったが、粘りの走りでゴール時点では11位にポジションを回復。苦しみながらのゴールとなった。佐藤は6位でゴール。レース序盤と中盤、そして後半でのペースコントロールやさらにレベルの高いレース運びが明らかに重要で、今後の課題になりそうだ。予選レース終了後、大宮車両のシートステー箇所に僅かながらクラックが見つかり補修。キレイがないように見えた原因是これかもしれない…。



## 【第9戦 決勝】佐藤 DNF(リタイヤ) / 大宮 DNF(リタイヤ)

全日本カート選手権第9戦の決勝は9時25分から。しかし今年一番の bad レースとなってしまった。スタート直後の3コーナーで佐藤凌音のアウト側の選手が思わず接触。佐藤を巻き込んでコースアウト…。イン側にいたにも関わらず不運なリタイヤとなってしまった。またスタートで一気にポジションを5位に上げ、昨日のクラック補修により良い動きを取り戻したように見える大宮賢人にはマシントラブルが…。本当に応援して頂いている方には申し訳ない止まり方で第9戦を終えました。幸い、激しいコースアウトに見えた佐藤のマシンにもダメージはほぼなく、マシントラブルの大宮も気持ちを切り替えてくれました。本当に最後の第10戦に全てをぶつけます。



## 【第10戦 予選】佐藤1位 / 大宮3位

第10戦の予選はタイムトライアルの結果順のスタートとなる。佐藤は3位、大宮は9位からのスタートとなる。スタート直後の1コーナーでなんと2位の選手がスピントラブル、その隙を縫って佐藤がスルスルとトップに。幸運もありオープニングラップでいきなり1位の佐藤。しかもペースが良く、後方の2位以降も追いつける雰囲気ではない。周回を重ねても1位と2位のマージンは5メートルほどありスリップも使えない距離のようだ。そして、第2グループでは大宮が素晴らしいペースでパッシングを繰り返している。大宮はファステストを出しながら前方のマシンをオーバーテイク。4周終了時点で5番手にまで上げる驚異的な走り。5周目に4位、そして少し離れた3位を目指す。佐藤はすでにマージンを2、5秒近く築き、速度の速いOKクラスでは10メートルほどの差に見える。タイムの落ちもなく、両選手ともに素晴らしいペースだ。8周目の最終コーナーで大宮はついに3位に浮上。2位を狙ったが、先ほどのパッシングの際に既に2位の選手は遠ざかってしまい、ゴール直前には2位が目の前に迫るもののがない。佐藤は堂々の1位、大宮は3位ながらもファステストを出す走りで今シーズン最後の予選で完璧な走りを見せた。



大宮選手は予選のファステストでチャンネル700賞を受賞

## 【第10戦 決勝】佐藤12位 / 大宮5位



2020 オートバックス全日本カート選手権 OK クラス、今シーズン最後のレースは15時25分にスタートが切られる。鈴鹿のポールに久しぶりに INTREPID が帰ってきた。1位に佐藤、すぐ後ろの3位グリッドには大宮と1-2こそ逃したが、心躍る光景を再び見れたのはドライバーに感謝です。ローリングは佐藤が引っ張りスタート。しかし佐藤のスタートは上手く決まらず2位に大宮は3位で順位変わらず。オープニングラップは2位-3位で帰ってくる2周目の最終コーナー立ち上がりから1コーナーにかけて佐藤がトップに浮上！とおもいきやクロスをかけた状態の大宮が3位から一気に1位に浮上。大宮-佐藤の1-2体制で周回を始める。その後数週に渡り1-2体制での周回が続いたが、後続に比べてペースが上がらない…。いつもならタイヤが減り始めた時からタイムが伸びるが、この決勝はその逆…。6周目に佐藤が3位に転落。ペースも上がらず少しづつ順位を落していく。そしてトップの大宮は9周までトップをキープするもついに3コーナーでパスされ首位陥落。しっかりとスリップを使いついていきたいところはあるが、ペースが上がらない…。ペースがコンマ1～2足りずに苦しんでいる…。その後レースは数周ごとに調子の良い選手が変わるスペシャルタイヤならではの展開に…。粘る大宮は3位から2位でのバトルを展開。苦しみながらも見せ場を作っている。15周目を終わって2位、トップとは0、2秒もないギャップだ。佐藤は9位にドロップ…タイヤがブローする今までにない症状に苦しんでいる。16周終了時点で大宮は順位を一つ落とし3位。しかしこの辺りから後方より予選でストップし、タイヤの残量豊富な佐々木、渡会の両選手が追いついてくる。タイヤの残量豊富な選手に抜かれ順位を更に下げてしまう。その後、抜きつ抜かれつのバトルはあったが結局大宮は5位、佐藤は大いに苦しみ12位となった。いつもならタイヤに非常に優しく、周回を重ねてもタイヤが減りにくいシャーシ特性であったが、今大会は違った…。毎大会かわるスペシャルタイヤの特性に少しだけ理解が及ばなかったのが決勝で大きく出てしまった気がするレースでした。あと数度の気温、路面温度の違いだったと想像しますが、アジャストできなかつたのは最後に残念でした。表彰台や優勝も狙えただけに、ご関係者の皆様、応援頂く皆様に申し訳ない気持ちで一杯です。今シーズンはコロナ禍によりシーズン開催も怪しかったなか、リスケジュールが組まれ後半戦はドタバタでしたが無事に今シーズンを怪我なく終えました。スポーツの世界なので結果が1番大事でしたが、残念ながら表彰台に上がりシーザンを終えてしまいました。私達も進化しているのですが、そのスピードをもっと上げないといけないと思うシーズン。来シーズン以降、佐藤監督が率いるレーシングチームは勿論、弊社のレーシングカート輸入関係も皆様にワクワクさせるような仕事をします。リザルトで恩返しが出来ず本当に悔しいのですが、引き続きレーシングチーム、そして弊社のカート関係事業への応援と叱咤激励をして頂ければ幸いです。本当に今シーズンも応援、ご声援頂いた皆様、お支え頂きました関係者や選手、ご家族の皆さんに厚く厚く御礼申し上げます。来シーズンの発表は2021年以降の準備が出来た段階で発表させて頂く予定です。どうぞ引き続き宜しくお願ひ申し上げます。



れ後半戦はドタバタでしたが無事に今シーズンを怪我なく終えました。スポーツの世界なので結果が1番大事でしたが、残念ながら表彰台に上がりシーザンを終えてしまいました。私達も進化しているのですが、そのスピードをもっと上げないといけないと思うシーズン。来シーズン以降、佐藤監督が率いるレーシングチームは勿論、弊社のレーシングカート輸入関係も皆様にワクワクさせるような仕事をします。リザルトで恩返しが出来ず本当に悔しいのですが、引き続きレーシングチーム、そして弊社のカート関係事業への応援と叱咤激励をして頂ければ幸いです。本当に今シーズンも応援、ご声援頂いた皆様、お支え頂きました関係者や選手、ご家族の皆さんに厚く厚く御礼申し上げます。来シーズンの発表は2021年以降の準備が出来た段階で発表させて頂く予定です。どうぞ引き続き宜しくお願ひ申し上げます。



## ドライバー 佐藤 凌音 コメント



鈴鹿大会では木曜日からの占有走行から調子も良くいい状態でレースに挑む事ができました。しかしその中でもレース展開などはまだ詰めが甘いところがあり上位進出が期待されたために残念な結果になってしまいました。しかし今大会では自分の悪いところがハッキリと出たためしっかりと見つめ直し、これからに活かしていきます。この鈴鹿大会で1年のスケジュールは終了しました。応援して下さった皆様、スポンサー様、今シーズンを通してのサポートありがとうございました!

## ドライバー 大宮 賢人 コメント



今回、1戦目はトラブルでリタイヤしてしまい、2戦目は自分のタイヤマネジメントが上手く出来ていなくて後半ペースダウンしてしまった結果は5位になってしまいました。最後にいい結果を残せなくて残念でしたが今年1年イントレピットの皆さんのおかげでとても成長できました!また来年に向けて準備をして来シーズンはチャンピオンをとります!ありがとうございました!

## INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



今回の鈴鹿大会は前回大会で失敗したタイムトライアルでのタイム出し  
が上手くいき、常に上位でレースが出来た事が両選手とも  
成長出来た部分ではありました。その甲斐あって予選・レースは常に  
上位でレースする事によって今までに経験出来なかった先頭に立って  
レースコントロールした事など収穫があった大会になりました。  
結果的には経験不足で臨んだ結果にはなりませんでしたが、  
チーム力がある程度向上出来たと思います。この経験を生かして  
来シーズンに繋げて行きたいと思います。  
最後にいつも多大なるご支援を頂きスポンサーの皆様のサポートで  
1年間レースが出来る事が出来ました。  
この場をお借りして感謝申し上げます。来シーズンに向けて準備して  
強くなって戻って参ります。

